

まなびや

学制一五〇周年企画展の見どころ



▼大正自由教育とは

19世紀末期から20世紀初期にかけて、欧米では教師が書物を中心に教え込む教育から、子どもが主体となって自発的に学んでいく教育が広がりを見せていました。

日本でこうした新しい教育が紹介されると、大正デモクラシーの風潮もあり、一九二〇～一九三〇年代前半にかけて、子どもたちの関心や自発性を尊重する教育を行う学校が見られるようになりました。それは教師が新しい教育を学び、成長することでもあり「大正自由教育」(「大正新教育」などと呼んでいます)。

▼福井県の自由教育

自由教育の取り組みが全国的に注目される中、福井県内

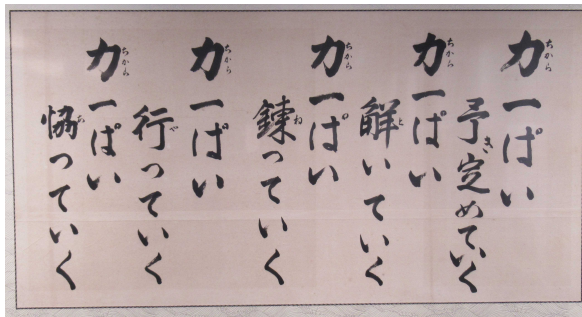
にも、教師が教科書の内容を一方的に教えるのではなく、児童・生徒の自発的な取り組みを尊重する教育を行う学校が見られるようになりました。

自由教育の多くは、師範学校の附属小学校や都市の私立学校での自主的な取り組みとして行われました。しかし、福井県では師範学校附属小学校の他、多くの公立小学校が実践し、中でも三国尋常高等小学校(現在の三国南小学校)の「自発教育」が全国から大いに注目を集めました。

▼三国尋常高等小学校の実践

三国尋常高等小学校の自発教育は三好得恵校長の赴任によって始まりました。三好は福井師範学校を卒業後、附属小学校、奈良女子高等師範学

校附属小学校などで新教育の研究と実践を重ね、一九一九(大正8)年、三国尋常高等小学校の校長となりました。一九三三(昭和8)年に三好が退職するまでの15年間、同校は新教育の推進校として全国から注目されるようになり、県内でも新教育運動に取り組み学校が現れてきました。



三好得恵の自発教育【五つの標語】三国南小学校蔵

▼パーカストの来校

一九二〇(大正9)年、アメリカの教育者、パーカストはダルトン市のハイスクールで、独自の教育指導法(ダルトン・プラン)を実践します。パーカストの教育実践が日本に紹介されると、三国尋常高等

小学校の教育は、これに非常に似ているとして全国に知られることになりました。パーカストは一九二四(大正13)年来日すると三国にも足を運び、授業を参観して驚き、大いに賞賛したということです。



来日したパーカストを囲んで



自発教育研究大会・講演会

▼今も生きる「大正自由教育」

先進的な取り組みとして大正自由教育で展開された、児

当時の教授用掛図(植物・地理)



地理(印度の学習)授業風景

童・生徒が興味をもった内容について自分で調べ、研究していくという方法や、教科の垣根を越えて横断的に学習することなどは、現在の「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」でも最も重要な点です。大正自由教育の精神は、一〇〇年近く経った現在でもなお生き続けているのです。